

令和4年度 第1回総合教育会議 会議録

日 時 令和5年2月24日（金） 午後3時30分から午後4時40分まで

場 所 与謝野町役場3階 会議室2

出席者 山添町長、長島教育長、大迫参与（オンライン）、岡田教育委員長、樋口委員、酒井委員、佐々木委員、柴田教育次長兼課長、植田社会教育課長、長島総務課長、中田課長補佐

担当	内容
長島 総務課長	<p>それでは皆さん改めましてこんにちは。</p> <p>定刻より早いですけれども、お揃いをいただいておりますので、始めていききたいと思います。</p> <p>それでは、令和4年度第1回与謝野町総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日はWeb会議によりまして、大迫参与にもご出席をいただいております。</p> <p>本日の会議ですけれども時間の都合上おおよそ1時間の予定とさせていただきます。</p> <p>短時間となりますが、どうぞよろしく願いをいたします。</p> <p>それでは開会に当たりまして、山添町長からご挨拶をいただきます。</p>
山添町長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>それでは本日は、令和4年度、第1回目となります与謝野町総合教育会議ということで、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>それぞれの委員の皆様方においては、教育委員として、または参与のお立場の中で与謝野町の教育行政に対する様々なご指摘であったりご協力をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日の総合教育会議の議題といたしましては、1点、「与謝野町の教育大綱の改定について」ということでございます。</p> <p>本大綱につきましては、平成27年度の制定以降、2度目の改定時期を迎えたということにございます。この後、具体的な改定事項についてご議論いただきますけれども、その議論の中でこの改定内容のみならず幅広く教育全般によってご議論をいただくということがいいのではなかろうかと思っております。</p> <p>本日、限られた時間ではありますが有意義な時間になりますことを祈念申し上げまして本日の総合教育会議の開催にあたりましてのご挨拶に代えさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
長島 総務課長	<p>はい、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは議題につきましては、町長の進行によりまして進めていただきたいと思います。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山添町長	<p>はいそれではお手元に配布をしております、次第に基づき議事を進行いたします。</p> <p>3番、議題として①与謝野町の教育大綱の改定についてでございます。</p> <p>本教育大綱につきましては、大迫参与、教育委員の皆様方と様々な議論を重ねながら、平成27年度に第1次の大綱を策定をさせていただきました。</p> <p>その後には、平成30年度に第1次の計画期間の満了に伴い、基本理念、基本目標については変更を行わず計画の期間のみを延長するという形で改定を行ったということでございます。</p>

担当	内容
	<p>この度、第2次の計画期間が満了することに伴い、基本目標の追加並びに一部文言の修正を考えております。</p> <p>改定案はお手元に配布させていただいておりますので詳細につきましては事務局から説明を申し上げます。</p>
長島 総務課長	<p>それでは、町長から説明の指示がございましたので、私から改定案につきましてご説明をさせていただきます。</p> <p>事前配布しております資料をご覧おきいただきたいと思います。</p> <p>まず1ページ目でございます。左側に現行の教育大綱の「教育理念及び基本目標」でございます。右側は、改定案でございます。網掛け部分が今回改定したいと考えている個所でございます。</p> <p>それでは改定部分についてご説明をさせていただきたいと思います、資料の2ページ目をご覧ください。</p> <p>今回の改定につきましては、現行の教育大綱の計画期間が令和4年度までとなっておりますことから計画の期間の見直しに合わせ、基本目標の一部文言修正の他、時代の変化に合わせた基本目標の追加をご提案させていただくものでございます。</p> <p>まず資料(1)の文言修正でございます。</p> <p>基本目標(4)受容性の中の、「与謝野学」の部分でございます。</p> <p>こちら「与謝野学」につきましては、教育委員会内では「ふるさと学習」のことをひらがなの「よさの学」として使用されておりますので、より伝わりやすい表現へ修正してはということで今回ご提案させていただくものでございます。</p> <p>次に資料(2)でございます。基本目標の追加でございます。</p> <p>令和2年から感染の拡大がはじまりました新型コロナウイルス感染症は、教育現場等で多くの困難をもたらしました一方で、オンライン授業の導入でありましたり、オンライン講座の普及、また本日の会議につきましても大迫参与にオンライン会議でご参加いただくなど大きな転換点にもなったと思っております。</p> <p>また、昨年度の総合教育会議では、大迫参与から教育にもデジタル化の視点の必要性のお話しをいただきました点等も踏まえまして、新たな基本目標を追加するご提案でございます。</p> <p>追加目標の内容は、読み上げますと</p> <p>「教育DXなどの新たな動きに対応するとともに、人工知能が飛躍的な進化を遂げる未来社会においても、主体的・創造的に生きることができる資質や能力を育む」といたしております。</p> <p>目標のタイトルとしましては、「普遍性」としております。</p> <p>資料の※の部分となりますが、この「普遍性」につきましては、不易と流行、先進性を持ちながらも、いつの時代・社会でも変わらない生き方があるとの思いを込めたものでございます。</p> <p>次に資料(3)は計画期間の設定でございます。</p> <p>現行大綱においては、町長の任期に合わせ、平成30年度から令和4年度の5年間と設定</p>

担当	内容
	<p>をいたしております。</p> <p>教育大綱は町長が教育委員会と協議の上策定するものであることから、次期大綱の計画期間は、町長の任期年度の翌年度の令和8年度までの4年間の計画期間としまして、町長の新しい任期にさらに次期大綱を作成しても切れ目が生じないように設定するというものです。</p> <p>以上、今回の改定案のご説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山添町長	<p>ただいま事務局から今回の改定案についての説明をさせていただきました。</p> <p>皆様方からご意見を頂戴する前に、長島教育長から補足する点の他、本改定により今後の教育施策の展開などに対してお考えがございましたら、ご説明をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
長島教育長	<p>大迫先生、大変お世話になっております、ありがとうございます。</p> <p>それでは私の意見というよりも先ほど長島総務課長の方が説明されたことを繰り返す部分も多いかと思えます。</p> <p>基本線として、今回の改定では大きく改定すべきものではないというふうに考えております。その理由といたしましては、山添町長が再選をされておられますので方針が大きく変わるものではない。</p> <p>ただ1点思いましたのが、これからの時代を生きていく子どもたちがどういう時代社会の中を生きていくかということについて触れていった方がより教育大綱としては望ましいのではないかという思いがございました。</p> <p>そこで、新しく(6)の「普遍性」というところで教育DXなどの新たな動きに対応するとともに、これは未来社会を生きる子どもたちにとって、どうしても必要なこと、避けられないことでありますし、もっと言いますと人生100年時代を生きていく私たち全ての者にとってデジタル化に対応していくことが必要だと思えます。</p> <p>ただ、その一方でそれに翻弄されるような生き方を子どもたちにはしてほしくないという思いもございます。</p> <p>そういう意味で未来社会においても主体的、創造的に生きることができる資質や能力を育むという点が入っているのだというふうに理解をいたしております。</p> <p>そういう点から不易と流行という部分がございますが、不易の部分をしっかり入れていくべきであると思っており、この項目を追加されることについては私としてはやはり必要なことではないかなというふうに思えます。もう少し細かな部分につきましては、この教育大綱の前書きになる町長からの前段の「はじめに」のところで、細かな点は書かれていけばいいのではないかと考えております。</p> <p>教育委員会といたしましてもGIGAスクール構想がまさに教育DXの部分だと思えますし、これからデジタル教科書も間違いなく入ってくると思えます。タブレットの活用も一層進んでいくと思えます。</p> <p>そういう動きにしっかり対応していくとともに1月に大迫先生にも来ていただきました、平田オリザさんに私達も学ばせていただきました「コミュニケーションスキル」、このあたりのところをやはり大事にしていく、そういう部分と合わせながら本町の教育というものを進</p>

担当	内容
	<p>めていきたく思っております。</p> <p>また、文言の修正で「与謝野学」の漢字からひらがなの「よさの」に換えていただいているんですが残念ながらまだ一般化まではしていないのが現状でございます。</p> <p>教育委員会の内部でこのひらがなの「よさの」で話をしておりますが、これが本町のふるさと学習が「よさの学」というこのひらがなの3文字にしっかりなっていくということを今後教育委員会として学校と連携しながら強めていかなければいけない点だというふうに感じているところでございます。以上でございます。</p>
山添町長	<p>それではただいま長島教育長からも今回の改定に伴うご意見をいただいたというところでございます。皆様方からもご意見を頂戴できればと思っておりますので、この後は挙手をいただきながら発言をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、少し大迫先生からもただいまの変更点あるいは現在の教育の潮流など含めてご意見をいただくことができると思ひますが、いかがでしょうか。</p>
大迫参与	<p>先ほど町長が言われました、時代の潮流といひますか、あるいは先ほどの説明にもありました、時代の変化に合わせるという表現もあつたかと思ひますが、改定案について、少しコメントを言わせていただきます。</p> <p>改定に関して、資料の黄色くなつてるところについてに関しては、特にございません。</p> <p>ただ、全体を見て2点ほどございまして、一つは(5)の「社会性」につきましては、これまでと同じになつてるところですが、この中に「コミュニケーション力を育む」と入つています。</p> <p>この「コミュニケーション力」というのが非常に重要なものとして考えられて、一般的な社会的な人間関係、あるいは集団の中でのコミュニケーションみたいな、そういうレベルでの従来の意味での繋がりという意味では、コミュニケーションということもありますけれども、もう一つ、この教育大綱に直接的に関係するものとして、「コミュニケーション力」というものが学力の向上に必須であるということなんです。</p> <p>ここはもう絶対に外すことができない大きな流れだと思ひますね。</p> <p>長島教育長が、触れられました平田オリザ氏の演劇手法によつての学びというものを、先だって与謝野町の中でも実践をされましたけれども、あの平田オリザ氏の演劇手法による学びってものの本質は「コミュニケーション力」の育成、それに尽きるわけですよ。</p> <p>そういうふうに考えると、社会性という項目の一部に含まれるだけでいいのか。</p> <p>これは単独の1項目にすべき重さ、重要性があるのではないかと少し気がなりました。</p> <p>町長も観覧されたと思ひます、また与謝野町の現場の先生方もご覧になつた平田オリザ氏の、演劇手法に基づく学びということが、この改定、教育大綱の有効年度に実際に行われるんでしたら、それと関連する項目を持つておくことも重要ではないかというふうに考えるんです。ということで、「コミュニケーション力」というものを1項目として置くぐらいの位置づけが必要なんではないか、例えば「人と人とを繋ぎ、かつ学力の向上を生み出すための様々な場面でのコミュニケーション力を育む」みたいな形で様々な場面というのは、直接であつたり、オンラインも含めての表現なんですけれども、第何項目になるかは分かりませんが、</p>

担当	内容
大迫参与	<p>もう一回読んでみますが、項目「コミュニケーション力」、「人と人とを繋ぎ、かつ学力の向上を生み出すための様々な場面でのコミュニケーション力を育む」というような1項目を立てることが重要なのではないかと改定を見て考えました。</p> <p>そうするとこの社会性のところにコミュニケーション力っていうのは、重なってしまうのでちょっと皆様方にはあまりなじみがない言葉かもしれませんが、この(5)社会性の一番最後のところを、「円滑に維持するためのソーシャルスキルを育む」みたいになると、重複するところが避けられるかもしれません。</p> <p>ソーシャルスキルというのは、この私が専門とするところでは当たり前のように使われる、「責任」であるとか「協力」であるとか「役割分担」だとか「対立回避」だとかというようなことを理解して発揮できるのを「ソーシャルスキル」と要約するんですけども。</p> <p>例えばそういう形でちょっと(5)社会性を書き換えることによって、「コミュニケーション力」というものを1項目立てることができるのではないかが私からの一つ目のコメントです。</p> <p>二つ目は、この基本目標ですから、到達目標であり到達目的であります。</p> <p>要するに教育の内容が書いてあるということです。どういうことをやるか、どういうことを目標にするのか、これはまさに時代の変化、潮流ということですが、今、教育に対しては現在、進行中の新学習指導要領というものも数年たってますが、現在の学習指導要領の重要なポイントとして初めて内容に加え、方法が加えられたというのが、新学習指導要領の大きなポイントになっています。</p> <p>その方法というのがどういう言葉で表されてるかということ、「主体的かつ対話的」というそういう方法で深い学びに、たどり着こうというのが新学習指導要領の中のキーになっている表現なんですけれどもその主体的、対話的っていうのがその方法なわけですよ。対話的というのは、一方通行ではなく対話的にやっというものが始めて新学習指導要領、国の方針として出された。そういう現状から考えますと、この大綱の中には、方法が一つも入っていないんですよ。</p> <p>あえて探すと、(2)の「思考力」のところに思考を通した適切なみたいな形で思考っていうような言葉が入っていて、それは方法になるんですけども。</p> <p>ということで、これらの基本目標をどういう方法で勝ち取る、獲得していくかっていうところを、町長が「前書き」を付け加えとおっしゃっていたので、そのところで加えるということがとても重要ではないかというふうに考えます。</p> <p>本当は大綱自体に内容と方法というものは、分けて書くのがいいかもしれないんですけども、あまり大きく変えるのはやはりし好ましくないという声もあるかもしれませんので、この方法に関しては、確かに現在の学習指導要領の大きな基本のものに落さないということで、この大綱の中ではなく前書き部分のところで方法について書く必要があるだろうと思います。</p> <p>方法に関しては、主体的対話的というような学習指導要領のこともありますが、もう一つとっても重要なのが、「探求」という言葉です。</p> <p>暗記、記憶ではなく、「探究」をする。「探究」というのは、高等学校では科目名にもなっ</p>

担当	内容
大迫参与	<p>ていますので、「探求」というキーワードを方法の具体的な内容にしておく必要があるだろう。</p> <p>「探究」の「きゅう」は研究の「究」です。</p> <p>実はもしかしたら、「探究」は、研究の「究」にしようと言いだめたのは、僕なんじゃないかなあと、ちょっと確証がないんですけども、かなり前から「探究」の重要性っていうのはずっと話をしてきましたので、研究の「究」という字を使った「探究」という言葉を、方法として、置いておくことは重要じゃないかと思います。</p> <p>最後に小さいことですが、これも町長の前書きになる部分かもしれませんが、この教育目標、今7項目、もしかしたら8項目にされるかもしれませんが、これは全部「育む」ですから、主体は子ども達になりますが、先生方もみんなこの大綱の考えを持っていかないとけない。</p> <p>これは子ども達だけに押し付けるのではなく、先生方も、自分の中でしっかりと生涯学習者としてですね、自分の中でこれを成長させながら、取り組んでいってほしいっていうようなポイントも小さなことですが加えておきたいというふうに思います。</p> <p>以上、一気におしゃべりしすぎましたけれども何かの参考になれば幸いです。</p> <p>ありがとうございます。</p>
山添町長	<p>大迫先生ありがとうございます。</p> <p>ただいま大迫先生からいただきましたご指摘事項につきましては、お聞きのとおりでございます。</p> <p>意見の取りまとめをさせていただく前に教育委員の皆様方からもどのような角度からでも結構ですのでご意見を頂戴できたらと思います。お願いします。</p>
樋口委員	<p>大迫先生こんにちは。</p> <p>先日の平田オリザ先生の授業は、大変私自身も勉強になりました。目から鱗みたいなのがたくさんありまして、あの1日は本当に充実した1日だったなと今でも思っております。</p> <p>先ほど先生がおっしゃったこととも重複するところがあるんですが、当日、平田オリザ先生がおっしゃった中で折り合いをつける。これがコミュニケーション能力のすごく一つ重要なポイントだなということをおっしゃっておられ、すごいことだと思ってそれでその中で子ども達は折り合いをつけたんだと、ただそれにどう向かっていくのかということ成長させるといところは教育の目標の一つなんじゃないかなというお話があったので、先ほど大迫先生がおっしゃったコミュニケーション能力、これを主として、ここに加えていくというのは私も、この前そのまま感じたことをそのまま申し上げて申し訳ないんですけど、つたない意見で申し訳ありませんが、そういったコミュニケーション能力がすごい大事だということ私痛感しております。</p> <p>以上です。</p>
山添町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それではせっかくですし、お一人ずつ一言いただけますようにお願いします。</p>
岡田委員	<p>大迫先生こんにちは、よろしくお願いします。</p>

担当	内容
	<p>大迫先生がおっしゃったことも含め、大きく改定することはないと思いますが、朝、いじめ対策会議に出ておりました、PTA協議会会長さんから家庭の親御さんに対してもう少ししっかりしてほしいと言いますか、そういったご意見をいただきました。私は基本目標の一番最後の(7)教育環境に、「家庭は全ての教育の原点」って書いてあるこの目標を一番上に持ってきていただいて、とにかく子ども達にとっても一番安心できるのは、家庭にあると思いますので、最後よりもこの「家庭は全ての教育の原点」を一番に持ってきてはどうかと思うのですが、どうでしょうか。</p> <p>また中には厳しい状況の家庭もある中で、社会全体、地域全体で支えていけるような環境を、子ども達に与えていけたら与謝野町で過ごした時代が意味があると思います、障害があっても、家庭環境が厳しくても、家庭に変わる地域のみんなの暖かい励ましなどそういうことが一生の宝物になるのと違うかなと思います。</p> <p>やっぱり家庭は全て教育の原点というところで、一番にこれを上げていって、社会全体で子どもを守って家庭はしっかり子どもを育てていきましょうというメッセージになればと思いますが、いかがでしょうか。</p>
山添町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>一旦それぞれ委員さんからご発言をいただいて後ほど、論点については取りまとめていくということで議論を進めたいと思います。</p> <p>それでは佐々木委員お願いします。</p>
佐々木委員	<p>大迫先生こんにちは。</p> <p>大迫先生が言われた言葉で、ソーシャルスキルというところが私も響きまして、今小学校でもソーシャルスキルみたいなことを取り組んでいますというようなお便りもあったので今の教育っていうところで、その文言を入れるのも一つかなと感じました。</p> <p>以上です。</p>
山添町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは酒井委員お願いします。</p>
酒井委員	<p>大迫先生こんにちは。</p> <p>私も先ほど皆さんがおっしゃられた通り、これまでのものを大きく変える必要はないかなというふうに思っております。</p> <p>私が個人的にちょっと一点、毎年学校の方を回らしていただいて感じるのは、全国的なことだと思うんですけども、発達障害であるとかそういう事情のある子どもさんの比率が高くなっているのかなと、与謝野町内においても2割を越すぐらいなのかなと感じています。</p> <p>現在の教育大綱の中でいうと、例えば基本目標の(1)学力の中の「個に応じた指導」とか、それから(4)受容性のところで「人の個性や価値観の多様性を認める」といったところに、そういった意味も含まれているのかなというふうに感じているのですが、その辺りを大綱に入れるかどうかは議論する内容だと思うのですが、その当たりの視点が私は一番気になることかなと思っています。</p> <p>以上です。</p>
山添町長	<p>はいありがとうございます。</p>

担当	内容
	<p>それではただいま大迫先生をはじめ教育委員の皆さま方からご議論をいただきました。</p> <p>まず、最初に大迫先生からは教育目標の（５）社会性に含んでいる、「コミュニケーション力」というものに対して、もう一項目を立てて、先ほど先生が「人と人とを繋ぎ、・・・」という文面を案としてご提案をいただきましたその形で項目立てをすることがいいのではなか。</p> <p>それに伴って円滑に維持するための「コミュニケーション力」ということを今後としては「ソーシャルスキルを育む」に変えていったらどうかというようなご提案をいただいたというところでございます。この点については先ほど樋口委員そして佐々木委員からも方向性としてはいいんじゃないかなという話がございました。</p> <p>特に他の委員の皆さま方で、この点について言及されない方がいらっしゃいましたら挙手にてご発言をよろしくお願いたしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>それではただいま論点とさせていただきます点について、私の方からコメントを申し上げたいと思います。</p> <p>先ほど大迫先生からは先月の平田オリザ先生の演劇的手法を通じたコミュニケーション能力を育む取り組みを本格化するのであればこうした文言を入れていくということも、マッチするのではないかというご発言があったかと思えます。</p> <p>来年度につきましては平田オリザ先生のご協力をいただきまして、演劇的手法を通じたコミュニケーション能力を育成していくための取り組みを本町の小学校において、拡充していくと、今そういうタイミングになります。</p> <p>そのタイミング等を鑑みますと、この改定案に折り込んでいくということ、そして本町の教育としてしっかりと位置づけていくということについては具体的な施策ともしっかりと連動していくものではないかと思えます。</p> <p>従いまして私といたしましては、大迫先生のご指摘というものを全面的に、今回の改定に盛り込んでいくということで作業を進めさせていただきたいと思えます。</p> <p>そして先ほど「コミュニケーション力」といったときの文面で人と人とを繋ぎ、それは学力の向上を進めるという話があったと思うんですけども。ちょっと論点を明確にしていくために、この「コミュニケーション力」を育むということが学力の向上にどのように繋がっていくのかという点について、大迫先生の方から、もう少しだけ解説といいますかいただけたらなと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
大迫先生	<p>はい先ほど私がコメントとして申し上げて文例案として作ってお伝えしましたが、「人と人とを繋ぎ、かつ学力の向上を生み出すための様々な場面でのコミュニケーション力を育む」というような形で一般的なコミュニケーションの意味、繋がりを創る、それから今町長からご質問がありました学力の向上というのが二つ目の内容としてその点をもう少し具体的にということをおっしゃいました。</p> <p>今の質問にお答えする形で少しだけお話をさせていただきますと、先日の平田オリザ氏の演劇手法による指導は、転校生がやってくる。そこでの教室の場面をみんなで協力してドラマにしようというような内容でした。</p> <p>それは各教科の学びとは直接的には繋がらない内容です。</p>

担当	内容
	<p>ところが、そのとき見学された先生方の中からも声が出たのですけれども、これを評価の学習の中でも使えそうな気がする。国語の時間、理科の時間、社会・算数の時間この方法を、やっていくなれば、子どもたちが学ぶ楽しさとか喜びとか、そういうものを感じながら学びが進んでいくような気がする。そこがとっても重要なんですよね。</p> <p>もちろん例えば算数がちょっと苦手な子が、算数の得意な子がちょっと教えてあげるみたいなそういうのは教室の場面でもあったかと思いますが、教え合い助け合いみたいな。</p> <p>今回のそれもある種のコミュニケーションであり、ある子どもが困ってたら、少し助けあげるみたいな自然発生的に起こる場面っていうのは決して珍しくないと思うんですけれども、それとは別に、学び全体が先生と一対一で向き合って、先生から教えていただく学びからみんなで本当に一緒になって学ぶという、その形に変えていくっていうことは、子どもたちの学習の意欲であるとか、あるいはその中での喜び、そしてさらに発展していくことによって、自己肯定感、自己高揚感、役に立つっていうような、そういう子どもの成長全体を生み出すっていうそういう機能を組み込み、その基盤にコミュニケーションスキルというのがあるというふうな今考え方で話をしました。</p> <p>実際に勉強がなかなかしんどいなあ、おもしろくないなあっていう子どもたちがこういう授業だったら、クラスだったら僕でも、私でもできるかもしれないって思うようにしてあげるっていうのはとても重要だと思うんですよね。</p> <p>それは従来型の形ではたぶん難しいのではないかな。</p> <p>新しくみんなで学び合うことによって、そういう子どもたちにとっても学校って面白いかもしれないって思ってもらえる、そういう仕掛けにもなるような私は気がしています。</p> <p>ということで勉強が上手にできる子から、ちょっとしんどい子まで全部の子どもたちにとって、そのコミュニケーション力、みんなで学ぶっていうことがとてもこれからの学びの中では重要な力を持つ、それは今回申し上げてるコミュニケーション力っていうものがそういうものを生み出していくように先生方はこれからの授業をできるだけ工夫をしていったらどうかっていうような考え方になります。</p>
山添町長	<p>はいありがとうございます。</p> <p>ただいま大迫参与からも少し先ほどのご提案の意味というものを解説いただきました。皆さま方それぞれ、納得されたのかなと思いますが、この点については何か付け加えておきたい点というようなことはありますでしょうかね。</p> <p>大丈夫ですか。</p> <p>それでは先ほど申し上げたようにこの基本目標の項目立てと文言修正を行いたいと存じます。</p> <p>合わせて大迫参与からは学習指導要領に位置づけている、主体的かつ多層的深い学び、特に主体的対話的という方法論をしっかりと明確に書き加えるべきである、そして探求あるいは子どもだけではなく先生も共に学んでいくというような意味合いも込めた方がいいんじゃないかという話がありました。</p> <p>この点については、お示ししている改定案ではなく、前書きの部分で総じて大切なことであるのでしっかりと位置づけるという方向で調整をさせていただきたいと思います。</p>

担当	内容
	<p>これから書きますのでよろしくお願ひします。</p> <p>続きまして、岡田委員から「家庭は教育の原点」という点について特段考えることが多いことから、ここを強調してはどうだろうと、具体的には、基本目標に掲げています一番上に上げて強調していくべきじゃないかというご提案がありました。この点については皆さま方いかがでしょうか？</p>
長島教育長	<p>難しいなと思うんです。岡田委員が言われるように、家庭は全ての教育の原点、私もそうだと思います。家庭はものすごく大事だということ本当にその通りなんです。</p> <p>ただ子どもは家庭を選べないという現実もあって逆に、家庭・家族が持てない子もいて、子どもは地域の宝とか、その子どもがどこで生まれようがどんな家庭であろうが守ってやれるような社会、地域であってほしいというのが一番の本当の理想と思うんですけど、でも現実にはちょっと複雑な部分もありまして、最初に上げてしまうと、家庭がなかなか持てない子が、やっぱり実際に町内にもおられますので、何とかしていきたいんですけど、その辺の苦しさを感じたりします。</p>
岡田委員	<p>私も配慮が足りなかったのですが、家庭って両親が揃ってるだけが家庭じゃなくて、おじいさん、おばあさん、誰とでもそこで暮らしていても、子どもにとってもそこが教育の原点になるだろうと思います。</p> <p>中々その家庭が難しい分、逆に地域が、周りがその子どもをどう支えていくかというところにも焦点を当てて、地域も含めても家庭でありたいと申し上げたところもあります。気持ちとしては、一番ですけども、最後でも家庭は全ての教育の原点とご理解いただけますので、(7)になるか(8)になるか分かりませんが、真ん中ではなくて最後に書いていただくことで大丈夫です。</p>
山添町長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今の議論をお伺いしながら、少し考えたいと思うのは今(7)の教育環境で、家庭は全ての教育の原点と書いていますけれども、必ずしも家庭を持つことができない子ども達もいるということをお考えしたときにこの家庭という言葉を残すということが最適なのかどうかというのは、ちょっと議論があることなのかもしれないというふうに思いました。</p> <p>つまり子ども達というのは家庭をはじめとする関係性の中で育まれるということであるし、その関係性の中には家庭もあれば地域社会もあれば、コミュニティの中での関係性といういろいろあるのだらうと思います。</p> <p>中でも当然親密な関係性ということが一番子どもたちにとっては、重要な居場所になるから表現として家庭という言葉がどのように映るのかということは、少し考えるところかなと思いました。</p> <p>このことについて、皆さま方の中でもう少し思われるとかありましたらご意見をお聞かせいただきたいなと思ひますが、どうでしょう。</p>
樋口委員	<p>たぶん(6)の普遍性を追加されて、その後の最後(7)に教育環境をもってこられたところにもたぶん意味があって、岡田委員が一番最後にと先ほど言われましたように、これは重要なポイントとして一番最後に置かれたんじゃないかなと私も考えております。</p> <p>どうしても教育ってなると一般の町民の方は、まず教育というのは学校でしていただく</p>

担当	内容
	<p>というイメージがあると思うんですよ、だからその中で学力であったり、思考力という部分が上にあって、最後に家庭ということがあるということに私は大きな意味を持つのかなと思っております。</p> <p>それと今町長がおっしゃったように家庭について、教育長もおっしゃられたことですが家庭を持ちづらい家庭が不幸にして、今成り立っていない状況がある中でもやっぱり目標として人が繋がる中で家庭というものを作っていくということはこれ一つ漠然とした愛情の形の到達点の一つとするのなら、僕はその家庭という文言が入ってもいいのではないかなと思います。</p> <p>それを子ども達が夢見ながら、また教育に打ち込んでいく教育に接することによって自分なりの家庭を作っていくという方向としても、家庭という言葉は、僕自身は置いておきたいなという気持ちは個人的に思っております。</p> <p>はい、以上です。</p>
山添町長	酒井委員はどうですか。
酒井委員	<p>はいそうですね。家庭というフレーズを入れること自体がいろいろな事情の子どもがいる中でどうかということだと思うのですが、家庭という言葉をあえて外さなくてもいいのかな、外すところまではしなくてもいいかなという思いは正直あります。</p> <p>ただ私今回、前にこの資料いただいて読み直しているときに、ちょっと少し話がずれるかもしれませんが、ぱっと読んで思ったのは、確かに家庭は全ての教育の原点であると思うんですけれども、この教育会議のところで家庭は全ての教育の原点を謳うとなると、ちょっと何か家庭に責任を押し付けている感じが、私はちょっと久しぶりに読んでみてそう受け取ってしまって、もちろん全ての教育の原点だと思うんです、その通りだと思うんですけれども、ちょっと書き方を少し工夫した方がいいのではないかと正直なところ思ったところです。</p> <p>まとまりないですが。</p>
大迫参与	<p>私よろしいでしょうか。</p> <p>ご指摘のように様々な事情の中で、いわゆる家庭っていうものを持たない子どもに対しての配慮はもちろんとても重要だと思うんですね。</p> <p>だけど同時に、そういう子たちにとっても、家庭に変わるような、あるいは家庭のような場っていうのは当然作って上げなくてはいけない。</p> <p>だから、この大綱の中に書いてある家庭っていうのはそういうものも含めている、いわゆる家庭ですよ。もしそうじゃない、揃っていない状況の子にも家庭のようなものをコミュニティとしていろいろと考えていくんだという説明を、この家庭っていう言葉について、そういう説明を仮にするとするならば、最初の家庭というところにカギ括弧をつけるといいのかもしれない。</p> <p>それから家庭のような場を含めて「家庭」と与謝野町では読んでいるんだ、そういうように定義しているんだみたいになると、家庭っていう単語をカギ括弧にくるんで出すと説明がしやすいかもしれないと思いました。</p> <p>ただ、かえってちょっとテクニカル的なので変な感じに思われる可能性もあるので、絶対それがいいかなと思わないですけれども、家庭という単語に何か意味を持たせるという場合</p>

担当	内容
	<p>は、裸で出さないでカギ括弧入れて出すのもテクニックとしてあるかもしれないというふうに思います。</p>
山添町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>皆さん改定のタイミングで家庭あるいは家庭のような居場所の大切さみたいなのところに我々がこう言及して議論を重ねたってということについても非常に意味があるのかなというふうに思います。</p> <p>その上で、改定案にどのように位置づけていくのかという点については、確かにちょっとテクニカル部分があるのかなと思いますので、この教育環境、「家庭は全ての教育の原点。ともに学び、成長する喜びを分かち合う家庭教育を地域全体で支えるやさしい社会を育む」これはこの通りにするのだけれども、もう少し意味をもうちょっと拡張させるみたいな作業がちょっと一工夫いるのかなと思いましたので大迫先生の先ほどの案も踏まえて、私達の方で一旦預からせていただきたいなと思いますのでそのようにご理解をよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして酒井委員からありました、発達に関わる子ども達への配慮と申しますか、そのような人たちに対してもしっかりと協力を提供していくんだという、そういう意味づけというところですが、先ほど酒井委員もおっしゃっていたように（１）学力であったり（４）の受容性の部分であったり、一定程度包含をされているということでしたけれども、その辺については、皆さま方の論点として、付け加えることがあればご意見を伺っていききたいなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
酒井委員	<p>情報を出した責任上、いわゆる教育現場でどういうフレーズが正式なものとして使われるのかわからないんですけど。</p> <p>私の印象としては学力のところの個に応じた指導っていうのは、これは限りなく学力に応じた指導みたいな印象を私は受けているので、この部分を例えばその特性を生かした指導とか、何かそういうもう少し幅広い言葉に直していただいたら、ちょっとそういうふうに伝わるのかなって思いました。</p> <p>実際はどういうフレーズがいいかなと私も分かりかねるところではあります。</p> <p>さっき自分でも言ったんですけども、そこまで具体的に大綱で述べるものではないと言えばそうであるのでアバウトにでも伝わっていればいいのかとこれについては思います。</p>
大迫参与	<p>ちょっとよろしいですか。</p> <p>出しゃばりすぎてごめんなさい。</p> <p>今の酒井委員の意見を受け止めると、（１）の学力のところ、「児童生徒の学力の状況」って書いてありますよね、この状況をという単語を「多様性」っていう単語に代えたら、もしかしたらおっしゃることが実現できるかもしれない。</p> <p>具体的に「多様性」っていうのはご指摘があった子どもたちのことを特に注意して見てあげるっていうことで。</p>
山添町長	<p>ありがとうございます、どうでしょうか。</p>

担当	内容
酒井委員	いいと思います、ありがとうございます。
山添町長	<p>はい、いい感じで温まってきましたので、ちょっと後日に遅らせるというのは何ですし、先ほどの家庭の部分、これも決めてしまいませんか。</p> <p>括弧で注釈をつける感じでよろしいでしょうか、どんな感じで文言をいれましょうか。</p>
岡田委員	<p>家庭を家族という表現も違う気がします。</p> <p>家庭は、里親であろうが誰であろうが、家庭はやはり家庭として、血のつながりだけが家庭ではないので、やっぱり家庭というのはおじいさんおばあさんと一緒に暮らしていてもそれはその子の家庭ですし、里親に育てられても、そこは家庭ですし、子どもが1人で生活していない以上、どのような状況であっても家庭であるので、家庭以外で表現するのは難しい、家族でもないし、やっぱり家庭以外での表現は難しいのではないのでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>あの大迫先生が言われたように、括弧で家庭というものみたいなことにしておけば、注釈を付けずとも、もともとのこともありますけども、やっぱり家庭でいい環境で過ごせることでやっぱり良くもなり得るし、悪い方向に行くこともあると思うのでやっぱり私も家庭って大事にしたいものなのかなって思います。</p>
山添町長	<p>そうしますと、家庭についての我々としての捉え方をこの議論の中でちょっと拡張させる、つまりいわゆる一般的な家庭だけではなくて子どもたちがいろんな関係性の中で主たる居場所として過ごす場そういったことも含めて「家庭」だというふうに我々として捉え、教育の現場として大切に地域社会を守っていきこうと、そういうような意味合いにしておくということだとすれば、良いのかなと思いますので、今の議論を踏まえて、家庭関係の部分はそうした理解だということを我々がしっかり共有しておくということで、止めさせていただき文言については、この現行のままでいかしていただくことでよろしいでしょうかね。</p> <p>はい、わかりました。ありがとうございます。</p> <p>最初に皆さま方にお聞かせをいただいた、論点として取り上げた意見については漏れがないのかなと思いますがその他、今までの議論を、通じてでも結構ですし、特にご発言をされたい方がいらっしゃいましたら、挙手にて発言をよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
酒井委員	<p>そうしましたら、先ほどの社会性のところとコミュニケーション力のところではこれは一点お願いという意味で、たぶん一般的にはその社会性とコミュニケーション力は限りなくその同じニュアンス捉えられてしまうと思うので、そのこの違いをはっきりさせておくことが必要だと思います。先ほど大迫先生がおっしゃった意味合いのコミュニケーション力は、その学力向上への影響が大きいということをおっしゃいましたけれども、おそらくその主体的対話的な学習のための基盤になる能力としてコミュニケーション力があるというお話だったと思います。</p> <p>そうするとこのコミュニケーション力のところ、先ほどのこの大綱の中に入れられない方法論の部分も、もしかすると入れられるのかなという感じがしますし、この二つの項目のところは、社会性はこういうもの、コミュニケーションというのはこういうことってということがはっきりわかるといいかなって思います。</p>

担当	内容
	はい、以上です。
山添町長	<p>はい、わかりました。</p> <p>その他いかがですかね、よろしいですか。</p> <p>はい、そうしますとただいま改定案として、出させていただきました点につきましては、先ほど取りまとめさせていただいたような形で基本的に改定し直すということとさせていただきたいと思います。</p> <p>また今回の議論には上げませんでしたけれども、この議論を受けて前書きをしっかりと位置付けていくこととさせていただきますので、前書きと修正した改定案と、もう一度精査させていただいてそれぞれの委員の皆さま方にご提示をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いをいたします。</p> <p>一応その取りまとめさせていただいて、委員の皆さま方に資料を配布させていただきますが、そのタイミングでどのように最終的に決定していくのかというプロセスについても、ご相談させていただくということで少しお時間をいただきたいなと思います。</p> <p>それでは、それではせっかくの機会ですので議題の②その他でそれぞれ皆様方からの情報提供などありましたらご発言よろしくお願いします。</p> <p>それでは時間も過ぎて参りましたので、本日の総合教育会議につきましては議論をこの程度で止めさせていただきたいと思います。</p> <p>皆さま方のご協力をいただきまして、非常にいい議論が出来たと思っております。</p> <p>皆さまの方のご協力に感謝申し上げます。本日の総合教育会議を閉じさせていただきます。</p> <p>お疲れ様でございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>大迫先生ありがとうございました。</p>